

平成 25 年度
上越老人福祉協会事業計画（案）
（役員会説明資料）

社会福祉法人 上越老人福祉協会

目 次

平成 25 年度法人本部事業実施計画 【経営理念】	1
【重点目標】	
平成 25 年度各事業実施計画	
Ⅰ. 高齢者総合福祉施設いなほ園 (特養及び在宅サービス、ケアハウスみのりの家、なかよし寿の家、宝寿、百寿)	4
Ⅱ. 特別養護老人ホーム新光園 (特養及び在宅サービス)	7
Ⅲ. 介護老人保健施設高田の郷 (老健及び在宅サービス、敬寿、楽・らく寿の里) Joetsu Senior and Mental Health Consumer Center (愛称 J O C O) ショートステイ本町・デイサービス本町	9
Ⅳ. 軽費老人ホーム千寿園	1 1
Ⅴ. ケアハウス上越	1 2

平成25年度 いなほ園グループ事業計画

基本方針

利用者一人一人の個別ニーズに基づき適切なサービスを提供し、利用者が主体的に豊かな生活が営めるよう支援する。

- (1) 利用者が、より自立的で活動的な生活ができるサービスを提供する。
- (2) 利用者が、健康的で安心、安全な生活ができるサービスを提供する。
- (3) 利用者が、自らの意思に基づき生活できるサービスを提供する。
- (4) 地域に広く利用され、地域から信頼されるサービスを提供する。

1. いなほ園及びいなほ園在宅複合施設重点目標

(1) 安定的・持続的な事業運営

- ①入所系サービスでは、待機者の生活状況や利用ニーズを踏まえた適正な情報管理をおこない、安定したベット活用をする。また、短期入所サービスについては居宅支援事業者との連携を強め、無駄のない利用に繋げる。利用率94%を目指す。
- ②在宅系サービスでは、利用者の正確な状態把握と利用予測を立て効率的なサービス利用につなげる。また、関係機関と情報交換を密にし、居宅サービスにおける利用者のニーズの変化を早期に把握し、事業運営に活かす。利用率は、通所介護（障害型85%・認知型70%）を目指す。
- ③居宅介護支援事業については、利用者の自立支援と包括的ケアの中心的役割を果たしながらも、安定的な事業活動が行えるよう、収支にバランスのとれた給付管理数を確保する。
- ④管理者及び監督職等は収支状況を理解し、それぞれの立場において利用者の生活向上と対費用効果を基に責任を持って資源管理をする。また、職員個々も日常の中の無駄をなくし組織の健全経営に繋げる。

(2) 人材育成と職員の連携強化

- ①老人福祉サービスに関わる職員として、必要となる法令・倫理・制度等の基礎知識を事業所において教育し、スキルとして身につける。その他、医療、看護、介護や認知症に関する研修を取り入れ、全体の質の向上を図る。
- ②職員個々の育成については、人事考課制度を活用し職種ごとの必要となる業務目標と職員個々の育成目標、考課を明らかにし専門職として向上し

ていく。

- ③考課面接については期首ごとの評価の機会と捉えるだけでなく、上司や部下および職種間、事業所内の相互理解の機会となるよう、全職員が積極的に活用する。

(3) 高品質なケアサービスの提供

- ①特別養護老人ホームでは、第三者評価の結果により改善されたサービスを全体化し、標準的ケアとして提供する。また、次年度に予定する再受審に向け残された課題を明らかにするとともに、受審の効果を含め検証する。
- ②在宅系サービスでは、短期入所事業が第三者評価結果を基にサービスの改善のスケジュール作りと見直しに取り掛かる。また、通所事業では一昨年の評価結果を基に改善された項目の標準化と残された課題のスケジュール及び改善と向上につなげる。
- ③全てのサービスでは利用者の重度化にともなう医療・看護ニーズや認知症を伴う利用者の自立支援ニーズに適切な対応ができるよう、ケアマネジメントの強化と専門職の連携強化の仕組みづくり、教育に取り組む。
- ④施設管理については、前年度に行った環境改善の成果と残された課題の整理を行い、更に暮らしやすい住まいづくりのため、施設内美化や衛生管理の徹底に取り組む。また、利用者の安心と安全が保障されるよう災害時の危機管理システムと組織強化、教育をおこなう

(4) 地域コミュニティづくりと地域包括ケアの試行

- ①地域の人たちと様々な関わりを通じて、地域福祉ニーズを探り特養および居宅系サービス事業が連携して、コミュニティづくりの支援をする。また、防災面においても相互協力のあり方について検討し、有事の際の万全なシステムを作り出す。
- ②今後、福祉政策の中心となる地域包括ケアの仕組みについて全職員が共通理解し、事業ごとに対応の方向性を検討していく。また、居宅介護支援及び居宅系サービスにおいては、包括的ケアを意識した上でサービス提供を行い、スムーズに移行できるようにする。
- ③地域の人たちが施設の持つ設備や人員、ケアに関するノウハウを理解し、活用できるよう、交流の機会を活用する。また、地域事業に積極的に参加し協力、支援を通じて相互に必要な、信頼される関係づくりを目指す。

2. ケアハウスみのりの家重点目標

- (1) 関係機関との連携により申込者の拡大を図るとともに、待機状況の正確な把握により、安定的な事業運営をする。また、法人内の同種事業と待機状況の情報を密に交換し、効果的な利用に繋げる。
- (2) 身体状況の変化や介護・医療ニーズに柔軟に対応するとともに、外部のサービス支援者の有効活用により、ケアハウス内での自立した生活の継続を支援する。
- (3) 居室の衛生管理については、自己管理を尊重しながらも個々に必要な支援をする。また、共有空間については衛生管理、美化など暮らしやすい住環境を基本に整備する。
- (4) 防災への対応については、利用者が自ら安全な行動が取れるよう、日頃からの意識啓発と定期的な訓練をおこなう。また施設として、迅速かつ適切な対応が取れるよう、自衛システムの強化と近隣を含めた関係機関の調整を図り、万が一に備える。

3. グループホーム重点目標

- (1) 法人内で協力し、利用ニーズの掘り起こしと広報をおこない、申込者の増大に繋げる。また、待機者については状況把握と情報管理を定期的におこない、空床発生時の速やかな対応に結びつける。
- (2) 利用者の希望や意見のみならず、第三者評価や運営推進会議など外部からの意見を活かしてサービスの質を向上させる。
- (3) 利用者が安全・安心で落ち着ける生活が送れるように、その人を取り巻く様々な環境を整える。
- (4) 地域の方々と認知症ケアに関する専門機能を共有し、情報を発信しつつ、福祉コミュニティ作りに協力する。

Ⅱ. 新光園グループ

基本方針

- (1) 利用する人が、気兼ねなく利用できる施設を目指し、施設機能を活かした誠意あるサービスを提供する。
- (2) 利用する人が、心身の力を発揮し、自らの生活を選択・決定できる個別のサービスを提供する。
- (3) 利用する人が、地域社会の一員として自覚し生活できる施設、また、地域福祉の拠り所として認められる施設。
- (4) 利用する人が、施設職員を自らの生活の援助者として心から信頼できる施設。

1. 重点目標

(1) 安定的・持続的な事業経営

- ① 地域ニーズや福祉動向について把握・分析し、「変化」・「必要」に対応し得る事業運営を行う。また、空床に対し円滑にサービス活用出来る様、関係機関との情報交換を密にし、利用へと繋げる。

利用率は、入所98%、短期入所87%、通所介護82%以上を目指す。

- ②施設設備・備品の老朽化に伴い、異常の早期発見と早期修繕に努める。買い換えが必要となる備品に関しては、長期資金計画のもと、購入検討を行っていく。

また、職員のコスト意識を高め、継続的な事業運営と利用者サービスへと資金を有効に活用する。

- ③災害、事故、感染症、また、情報管理や苦情対応など事業運営に伴うリスクに関しては、予防対策を明確にし、職員全体で取り組みを進めると共に、迅速・適切・丁寧な行動がとれるよう日常的な振り返りと体制整備に努める。

(2) 高品質なケアサービスの提供

- ①利用者の尊厳を守り、利用者が自らの生活を選択・決定できる環境を整備し、個々の安全・喜び・自信につながるサービスを提供する。

- ②平成24年度受審の第三者評価と職員を対象に実施した提供サービスアンケートで抽出された課題に対し、職員各々の専門性と組織力を活かし、計画的にサービス改善を図る。

また、通所事業においては、第三者評価を受診し、客観的視点から現サービスを見つめ直し、課題を明確にしていく。

- ③利用者の福祉ニーズに対し、職種の専門性とチーム力を活かしサービスを提供する。また、実践を通し積み上げてきたサービスは標準化し、堅持出来るサービス管理を考え、システムづくりを行う。
- ④地域の社会資源を大いに活用し、行事企画・広報内容などの工夫により施設機能・施設情報を地域へ積極的に発信し、開かれた施設づくりを行う。また、その活動過程を通し利用者との繋がりを強めていく。

(3) 職員育成と組織力の強化

- ①新採用職員の教育プログラムについて検討を加え個々の継続的育成を図る。また、全体研修であるサービス指針研修については工夫を加え職員参加を徹底し、各々が新光園サービスをかたちづくる重要な一員であるという自覚を高めていく。
- ②新人・中堅・監督職員各々への期待と役割・責任を明確にし、OJT、OFF-JT、人事考課システムを活かした個別の継続的育成を図る。
- ③フロア、職種、委員会、事業間の会議や、経営、運営、職員会議などを組織的に機能させ、職員間の十分な討議や意見交換、課題や取り組み検討を行い、職員が互いに啓発し合える事業組織を目指す。

Ⅲ. 高田の郷グループ

基本方針

- | | |
|------------|---------------------------------------|
| (1) 尊厳の保持 | 利用する方の意思及び人格を尊重し、常にその立場に立ったサービスを提供します |
| (2) 自立支援 | 1人ひとりのニーズに向き合い、必要なサービスを積極的に提供します |
| (3) 在宅復帰 | 在宅生活への復帰を目指したりハビリサービスを提供します |
| (4) 在宅生活支援 | 在宅生活の継続に向けた生活支援サービスを提供します |
| (5) 地域協働 | 地域住民の社会生活を支える機能を有した福祉拠点を目指します |

1. 重点目標

(1) 安定的・持続的な事業経営

- ① 入所部門、在宅部門共に利用率の安定を図るため、新規利用者獲得に取り組む。入所利用率90%、通所80%以上を目指す。
- ② 入所部門では利用者の在宅生活再開に向けたケアマネジメントを展開し、在宅復帰率30%以上を目指す。
- ③ 在宅復帰支援をより効果的に行うため・職域の役割を見直し、新たなサービス展開にも対応できるような組織・体制を作る。
- ④ 退所後の在宅生活継続を見据えた利用者や家族の生活ニーズを捉え、入所、通所、短期それぞれの専門性を活かした包括的なマネジメントが実施できるように、役割分担を整理する。

(2) 期待に沿う人材育成・確保

- ① 職員が標準化されたケアやサービス提供を実施するため、新たな取り組みにも対応できるマニュアルの整備や見直しを計画的に実施する。
- ② 明確な目標や方向性の提示により、職員の意欲やモチベーションの維持を図る。
- ③ 実践に結びつくテーマや課題に沿ったチーム研究、事業所内外で行う研修への参加を支援する体制を持つ。
- ④ 丁寧な接遇を実践できる職員教育を継続的に行う。
- ⑤ 自己評価を継続し、職員およびサービスの質の向上に努め、次回第三者評価受審に繋げる。又、評価結果を基にした改善計画への取り組みとその後の自己評価を実施する

(3) 看取り支援体制の整備

- ① 施設での看取り支援が在宅生活支援の延長上にあり、利用者・家族へのより専門性の高い支援の一つとして位置付けられると共に、支援に必要な体制・整備を進める。

- ② プロジェクトチームを立ち上げ、提供する看取り支援が持つ意義や方向性を示すと共に、研修計画の立案・実施やモデルケースによる実践を通じ全職員による共通理解に繋げる。
- ③ 施設でも自宅でも安心して終末期を過ごせるよう、利用者・家族への専門的支援を実践できる知識・技術を習得する。
- ④ 看取り支援に対しての専門的立場である事を確立すると共に、職種や職域毎に専門サービスを提供するための業務点検や見直しを計画的に実施する。

(4) 在宅支援の機能強化

- ① 老人保健施設の持つ機能・役割を全職員で再確認し、利用者の在宅復帰や在宅生活継続への支援を行うサービス事業所として、その機能の強化・拡大を図る。
- ② ケアマネジメントの基本に則り、専門的見地に基づいたサービス提供をすると同時に利用者・家族ともに在宅生活への意欲を維持できるように支援する。
- ③ 利用者支援に必要な情報が、職種・職員間ではもちろんの事、施設や事業所間でも共有でき、同一視点・方向性でのサービス提供に繋げる。
- ④ 担当となる居宅介護支援事業所および介護支援専門員との連携を強化し、相互理解や協力の基に利用者の在宅生活支援を進める。
- ⑤ 施設・事業所からの情報発信を行うと共に、地域との連携や社会資源の活用を積極的に行うことで、サービス展開に組み込めるような新たな仕組みの提案に繋げる。

2. Joetsu Senior and Mental Health Consumer Center (愛称 J O C O)

(デイサービスセンター本町・ショートステイ本町) 重点目標

(1) 安定的・持続的な事業経営

- ① 事業開始からの利用率を段階的に設定し、早期に目標利用率に到達する。
- ② サービス内容や提供エリア等の検証を行い、登録者数の適正化を図る。
- ③ 経費削減について、具体的項目の月次目標を設定し、それぞれがコスト意識を高める。
- ④ 地域ニーズやサービスニーズを的確に把握し、共に歩む施設を創設する。

(2) 人材育成と働き甲斐のある職場の実現

- ① 必要な知識・技術の習得と実践力の向上に取り組む。
- ② 話し合いの場を活かし、チーム力を最大化することを通じて、働き甲斐のある職場を実現する。

(3) 高品質なケアサービスの提供

- ① 少人数ケアの良さを最大限に活かし、きめ細かな対応とサービスを提供する。
- ② 利用者一人ひとりの可能性(ニーズ)を汲み取り、その方を中心(主役)としたサービスを共に考える。
- ③ (視覚)障がい者及び高齢者介護サービスについて更なる学びを深め、真摯に実践することを通じて信頼と絆を育む。

平成25年度 軽費老人ホーム千寿園事業計画（案）

I. 基本方針

利用者が、安心して、楽しく、暮らすことができ、豊かな生活が営めるように支援する。

- (1) 利用者が明るく豊かな生活が送れるよう、できる限り利用者のニーズにあった適切なサービス提供を行い、利用者同士及び利用者と職員の安定した人間関係づくりを図り、透明性の高い施設運営に努める。
- (2) 利用者の健康に十分配慮し、自立した生活が送れるよう介護予防を意識し、援助・支援する。
- (3) 居住環境の整備と施設の各種設備の常時点検を行い、安全管理の充実に努める。

II. 平成25年度重点目標

(1) 安定的・継続的な事業経営

- ① 年間を通して、利用率94%（47人）以上を確保するために、関係機関と連携しながら、入居希望者を確保し、確実に入居につなげる。
- ② 職員それぞれがコスト意識を持ち、現場における節約と効果的な活用に努める。
- ③ 平成25年度より新たに3年間の上越市との指定管理の契約が更新される。今年度以降は年間約200万円程度の委託費が減額となる。歳出の見直しを行い健全な経営を行うように努力する。

(2) 高品質なサービスの提供

- ① 利用者の個別的ニーズを把握し、それを基に各種の行事を計画し、生き生きとした生活が送れるように支援する。
- ② 利用者それぞれの嗜好や状態に合わせた食事提供に努めるとともに、食事を楽しめるような雰囲気作りに配慮する。
- ③ 要介護認定者においては、十分な現状認識を行い、担当ケアマネージャーとの連携により、在宅福祉サービスの利用も含め、適切なサービス提供できるように支援する。
- ④ 健康管理のため、定期健康診断と予防接種を実施し、病気等の早期発見に努め、病院受診や入院など迅速・適切な対応を行う。

(3) 家族・地域との連携

- ① 「千寿園だより」を年4回発行し、利用者、身元引受人等関係者に送付して施設の連絡、近況報告等を行う。
- ② 地域の町内会等と連携し、防災等で協力できる体制を維持して行く。

V. ケアハウス上越

I. 基本方針

- (1) 利用者が自主的に考え、個々を尊重し合い、出来る限り自由に生き生きと行動できる施設を目指します。
- (2) 利用者が抱える高齢や障がい、健康など生活上の不安に対して適切にサポートできる施設を目指します。
- (3) 自然環境や立地条件を活かし、利用者が地域の一員として共生できる施設を目指します。

II. 重点目標

(1) 安定的・持続的な事業経営

- ① 安定的な利用率確保（平均 98.5%）のため、関係機関への働きかけと情報発信を徹底し待機者調査を計画的に実施する。また必要に応じた地域ニーズ・利用者ニーズに合った居室利用を実践する。
- ② 委託料に見合う適正な事業経営のため、徹底した経費の見直しと削減に取り組む。老朽化に伴う修繕や備品の入替については早期点検とリスク調査により計画的に実施する。

(2) サービスの質向上及び高品質なサービス提供

- ① 昨年度実施した第三者評価結果をサービスの質向上に反映するため改善計画を作成し業務改革と職員の指導育成を徹底する。
- ② 介護保険利用者の増加に伴い、生活の安心と継続に繋がるよう新光園の持つ機能との関係性を高めると共に、身元引受人及びサービス提供者との連絡を密にする。
- ③ 利用者の社会生活における役割喪失を極力防止するため、その人の持つ経験・能力・趣味等を引き出し、一人ひとりの生きがいにつながる生活支援を行なう。
- ④ 町内会や老人会をはじめとする地域に点在する人的資源を効果的に導入し利用者の活動に反映する。

(3) 危機管理体制の強化

- ① 災害や感染症発生時に職員及び利用者がとるべき行動が理解できるよう深層理解に至る研修及び訓練を実施する。
- ② 新光園、町内会、地域と協力して大災害時の行動について協議を重ね、具体的な相互協力体制の構築をすすめる。